

静岡辟雍

(第七号)三〇・三・二〇

静岡県支部との連携事業の

発展を願う

東京学芸大学辟雍会会長あいさつ

馬淵 貞利

今年のご縁があつて、二度も静岡県に足を運ぶ機会がありました。一度目は、静岡県支部のお招きを得て、八月十九日に静岡市内の男女共同参画センター「あざれあ」で開催された平成二十九年支部総会に丹伊田副会長とともに参加させていただきました。この時、掛川市在住の鷺山前会長にもお会いすることができ、暑期中、静岡県支部の皆さんが、支部活動の活性化方法をめぐって熱心に意見を交わされているのを目の当たりにして、身の引き締まる思いがしました。また、この

後に行われた菊川南陵高校の金沢大将さんの講演は、ご自身の人生をバイオリズムのようにグラフ化してお話しされる興味深いものでしたが、この講演をお聴きして感じたことは、組織にとつて若い人の力がいかに重要かということでした。金沢さんは、持ち前のバイタリテイをもつて、自信を無くしている子どもたちの中に夢を育み、それが経営者の目に止まって、三十一歳の若さで校長に抜擢された方です。

二度目は、辟雍会が本年度から始めた「近県学校訪問事業」の折です。この事業に早速静岡県支部のご協力をいただき、十月五日から六日にかけて掛川市の学校や教育委員会に学芸大学の学生七名を連れて行くことができました(引率責任者は丹伊田・山本両副会長)。一行は経費節約のため、鷺山前会長宅に宿泊させていただきました。私は、事務局の林静代さん、後藤満幹事と一緒に「給食係」として車で掛川市まで出向きました。この企画は、学生たちにとつて、和やかな雰囲気の中で教職について考えることのできるとても良い経験になったようです。こうした辟雍会



近県学校訪問事業・鷺山邸にて—前列中央、帽子の方が馬淵会長—

のネットワークを利用した支部との連携事業が今後ますます発展することを願っております。最後になりましたが、小夜の中山で武藤葉子会長のご夫君が運営しておられる「夢灯(ゆめあかり)」という浮世絵美術館は素晴らしいところですので、ぜひ一度訪ねてみてください。ご推奨いたします。

『恕』のじよ

静岡辟雍会会長

武藤 葉子

春山淡冶トシ而笑フガ如シ
夏山蒼翠トシ而滴ルガ如シ
秋山明浄ニシ而粧ウガ如シ
冬山惨淡トシ而眠ルガ如シ

(月令博物筌より)

当に山滴る盛夏の八月十八日、静岡辟雍会の総会が開催されました。今年、鷲山会長から引き継がれた馬淵東京学芸大学辟雍会会長様、丹伊田副会長様のご出席くださり格調高い総会となりました。(会長様がお土産に持ってきてくださった韓国菓子を出席者にお配りするのを忘れてしまいました。申し訳ございませんでした)

恒例の講演会は、元横浜マ選手・前菊川南陵高校校長の金澤大将様の「サッカーとともにー私の歩みと今、そして未来を語るー」の講演をたっぷり拝聴致しました。「たぐさ



武藤葉子静岡辟雍会会長・総会あいさつ

んの選択肢があつたなら、一番厳しいものを取る」をモットーに幾多のハードルを乗り越えて今を真摯に歩いていらつしやるお姿に感銘を受けました。

その後の懇親会も正副会長・講師のご出席で酒席が大いに盛り上がり、一年に一度の静岡辟雍会の格別なひと時を過ごしました。来年は八回目の総会になります。未広がり「八」を記念して、出席者が今年の二倍に、会員数はプラス十五の百名達成に向けて、役

員総智を結集して頑張つてまいります。名案ございましたら事務局長か武藤までどしどしお寄せください。

さて、毎年の総会挨拶でお届けしている「私の大事にしている言葉」シリーズですが、今年「恕(じよ)」の文字に触れさせていただきました。「恕」とは「ゆるす」ことであり、「他人への思い遣りや、自分のことのように他人をおしはかる気持ちのこと。」です。今年、頓に世間を騒がせている世界の国々(勿論日本も)の面々に、「恕」の心があるのだろうか、と立腹すること頻りだった時なので、ついついこの文字を……。高校の時読んだ論語の中で、「子貢問うて曰く、一言にして以て終身之を行ふ可きもの有りや」と。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」と。(弟子の子貢に、生涯を通じて大事にすべき一語があるかと訊かれ、孔子は「それは恕だな。自分が他人からうけたくないことは、他人にもしないことだな。」と答えた)が、妙に強烈な印象として残りました。私は一生この文字を忘れ

ずに生きていこうと心に決めていたのに、いつしか脳裏から離れていました。が、教員生活半ばで「怒」の文字に再び触れ、教師としてのみならず人間として生きるには、「怒」は必要不可欠と再認識し、以後私の生きる基軸にしてきた大切な一文字だったからです。

更に今年、静岡辟雍会にとって大きな二つのイベントがありました。

一つは、辟雍会と大学共催の「学校教育系学生の近県学校訪問」という新事業の担当県に選定され、掛川市で、十月五・六日と実施させて頂きました。掛川市の山田教育長初め、市立中央小学校・東中学校の両校長のご理解とご協力で、講話や学大卒業生の素晴らしい授業参観を中心に、更に掛川市の歴史文化施設を訪問させていただき事業がスムーズに流れました。また、懇親会及び宿泊は、驚山前辟雍会会長宅にお世話になりました。タイトで中身の濃い事業展開でした。参加学生の「参観させていただいた先生方のように、子供の目線に立った教師にならなくては・・・」の感想を読んで、所期の目的を達成できた

実感いたしました。

二つ目は、事務局長さん発案の「文学散歩」です。総会で提案され承認された新事業です。十一月十八日、悪天候で参加者が少ないのが残念でしたが、現役も元現役も目先を換え、身も心も潤し、豊かに学べて楽しく交流できる価値ある事業であると思えました。会員の親睦を図るこの事業、来年はどこを歩けるか楽しみです。皆様も来年度は是非ご参加ください。

春の辟雍会理事会や、秋の辟雍会全国代表者会議に出席するたびに、静岡辟雍会の存在の大きさを誇りに思います。会員の皆様のご理解・ご協力のおかげです。どうぞ、今後とも、宜しくお願い致します。

静岡辟雍会総会開催

八月十九日（土）、東京学芸大学辟雍会馬淵貞利会長、丹伊田敏副会長をお招きし、平成二十九年度静岡辟雍会総会並びに講演会を開催しました。総会では、出席率をどう高

めるかが話題となりました。馬淵会長からは辟雍会の奨学金事業や他県の状況についてお話がありました。



金澤大将氏・講演会にて

今年の講師は、平成十七年L類生涯スポーツ科卒業の三十三歳、金澤大将氏にお願いしました。金澤氏は、三十一歳の若さで学校法人南陵学園菊川南陵高等学校の校長に就任された方です。東京学芸大学在学時には、ユニバーシアード日本代表に選ばれ、優勝の経験もあります。卒業後、横浜FCに入団、水戸ホーリーホック等のチームに移籍し、二

十九歳で菊川南陵高校に就職しました。講演では、パワーポイントを使って、人生の苦楽を折れ線で描いた「人生グラフ」を示し、過去を振り返りながら、その節目で何を考え、どう行動してきたかを率直に語っていただきました。その中心にあったのは、サッカーです。体験に基づくことばは重く、聴衆の心に響く講演でした。

懇親会は、静岡駅アステイ西館「八丁蔵」で行いました。馬淵貞利会長、丹伊田敏副会長にも参加いただき、楽しい時間を過ごしました。



懇親会・「八丁蔵」にて

来年度の総会・講演会は

平成三十年度静岡僻雍会総会は、八月十八日（土）午後二時から、今年度と同じ静岡県男女共同参画センターあざれあ五〇四会議室で行います。

講演会は、総会終了後、午後三時から行います。講師には、全国学校図書館協議会（全国S L A）参事・調査部長、青少年教育振興機構の絵本専門士委員会委員、磯部延之氏をお招きし、「学校図書館の現状と課題」（仮題）についてお話しいただきます。今、学校図書館の機能は大きく変わりつつあります。また、子どもたちの本離れが心配されています。学校図書館をめぐるさまざまな課題を考える機会になればと思います。教職にある方ははじめ多くの方々に参加していただけるよう願っています。

懇親会は、昨年と同じく静岡駅アステイ西館「八丁蔵」を予定しています。午後五時から七時まで飲み放題です。懇親会のみ参加も可能です。

万障繰り合わせの上、ぜひ御出席ください。

会員から

学生時代の思い出

平成二十七年卒 内田 博貴

私が東京学芸大学に合格したのは、平成二三年三月のこと。朝一番の新幹線で東京まで合格発表へ行き、スネイルズの胴上げは恥ずかしいので全力で拒否し、住む場所も決め、これからドキドキの新生活！と、思っていたところ、東日本大震災は起きました。数週間後から住もうという東京は、毎日のように地震。電気会社も水道局も電話が繋がらない。予定通り新学期が始まるのか、本当に不安だらけな心境で、大学生活が幕を開けたのを今でも覚えています。

学芸大での生活は毎日が刺激的で、昨日のことのように覚えていることも幾つか。NICIの日本一正確な時計を見ながら登校したり、多摩湖線の終電を逃して国分寺から青

梅街道まで歩いたり、深夜に農園で騒いで近隣住民に通報されたり、忘れたいようでも忘れない記憶ばかりです。

中には、忘れてはならないと思う記憶も。教員という立場になった今、教育実習の思い出は、職場でのモチベーションを保つ原動力となっています。



小金井祭・2017年11月4日(土)

今や高校の教壇に立っている私ですが、卒業したのはA類。三回の教育実習のうち二回は小学校でした。一回目は附属竹早小、二回目は多摩市の公立校と、都会とニュータウンというまったく異なる環境の学校で、児童

の様子全然違ったことを覚えています。竹早小での実習は、人生で初めて「授業をする」という立場になり、緊張と困惑が同時に襲ってくる中での実習でした。人生初授業は、最も苦手な国語。大失敗して指導教員の先生に苦笑いされたのは、今となっては懐かしい思い出です。多摩市の公立校での実習は、自由度が高く、実習生が自分一人だけということもあり、学校の先生方にとにかく鍛えて頂いた実習でした。子どもと真剣に向き合うこと、社会人としての教員の能力など、今の教員生活の基礎が、ここで築かれたと実感しています。ある児童の「先生の授業は本当に楽しい」という言葉は、今も忘れることができません。

学芸大での四年間の思い出は、自分の原動力として、何十年も生き続けていくと思っています。

静岡辟雍会総会に参加して

平成元年卒 佐野 正文

八月十九日(土)、静岡駅近くの静岡県男

女共同参画センター「あざれあ」で行われた静岡辟雍会の総会に今夏も参加させていただきました。遠藤亮平前会長から「皆勤かい？」と声をかけていただきましたが、平成二十三年三月に静岡県教育会館で行われた設立総会以降、静岡中島屋ホテル、掛川市生涯学習センター、Z会文教町ビル、あざれあ、掛川大日本報徳社と東中西部持ち回りで開催された後、静岡の「あざれあ」で開催されるようになってから三回目、確かに皆勤でありました。「できるだけ多くの会員が参加できるように」と、この時期に設定された総会も七回目、「夏の終わりの恒例行事」になっています。

鷺山恭彦前全国辟雍会会長、遠藤前会長、武藤葉子会長や勝田敏勝事務局長はじめお世話になった先輩方や、今回は講師を務めてくださった金澤大将さんと平成二十七年卒業の内田博貴さんら、若い会員の方々等この会でお会いすることができた同窓の方々や学生時代の思い出話や現在の学芸大学や教育についての情報交換など、楽しい時間を過ごしながら、新しい元気をいただいています。

毎年、企画されている講演会も、貴重なお話ばかりで、よい研修の機会となっております。今年度は、馬淵貞利全国辟雍会会長も出席くださり、懇親会で学生時代以来、三十年ぶりにお話を伺う機会もありました。



東京学芸大学図書館遠望

総会では、出席者を増やしていくために開催時期の変更も話題となりましたが、静岡県は首都圏以外では最も卒業生が多い県であると聞きました。長く加入できる同窓会組織がなく、鷺山先生の御尽力で静岡辟雍会が設

立されてからまだ七年、まだ卒業生に大学同窓会という意識が浸透していく途上なのかもしれませんが、この会でお会いできる方の数が今後さらに増えていけば、なお一層、有意義な会になると思っています。

先日、国分寺を訪れたところ、再開発で駅前はすっかり変貌しておりました。時間は流れても、ここで学んだ御縁は、これからも静岡で大切にしていきたいと思っています。

今日、この頃

昭和五十六年卒 鈴木 隆正

♪若草もゆる 武蔵野の 清き流れに 育まれ♪

ご存知、東京学芸大学（以下 学芸大）学生歌「若草もゆる」の冒頭の一節です。

大学に通っていた頃はコンパや小金井祭（懐かしい響き）の折に、締めとしてよく歌ったものでした。大学を卒業して三六年、すっかり歌う機会も減り、今では年一回の静岡県辟雍会総会での歌唱が唯一の機会です。

私が学芸大に入学したのは、昭和五十二年四月。センター試験の前身である、共通一次試験”（知る人も今では少なくなつたのは：）実施の二年前。大学が新しい時代に入ろうとする流れと旧国立大学一校・二期校の歴史が混在する時代でした。学生運動は三里塚など一部で行われていましたが全国的には沈静化していました。学芸大の校内には東門からの並木の中にシュプレヒコールが書かれた立て看板が点在し、当時の大学の雰囲気を感じ出していたのを覚えています。

当時の学芸大はまだ、生涯学習系の学科（俗に言う0免）はありませんでしたので、少なくとも私が在籍した保健体育学科では将来教員になることを夢見た学生が大半で、将来に向けての準備に明け暮れる毎日でした。今考えると明確な目標に向かって純粹に挑戦できた唯一の時期であったと思えます。それは、学芸大という環境と同じ目的を持ってその場所集った人間があつたればこそ物なのでしょう。

日々の講義や実技、実習、部活やサークル活動、下宿生活やバイト 教師としての専門

性と人間性を育み、次世代に伝えるべきものを自身の中に形作ることができた時、場所でありました。

定年がまぢかに迫った今日この頃、今更ながらに自分の定年のことなど夢にも考えていなかった学芸大での時間を懐かしく、また貴重に思えます。できることならばもう一度あの時代に戻りたいと思うのは私だけではないと思います。しかし、それは叶わぬ夢です。その当時夢見た教員生活の残り少ない時間を有意義に送りたいと思う今日この頃でもあります。明日も頑張るぞと。
♪希望 輝く 我が母校♪



ここはどこでしょう？答えは総会で

学芸大学生、掛川を訪問

東京学芸大学辟雍会が本年度から始めた「近県学校訪問事業」による訪問団が、十月五日（木）、六日（金）掛川市を訪れました。東京学芸大学の第一、二学年の男女七人と馬淵貞利会長をはじめとする引率者のみならずです。

五日朝、新幹線で掛川駅に着いた一行は、午前中、掛川市立中央小学校で授業参観の後、掛川市役所で昼食、そこで掛川市教育長の講話を伺いました。午後は、掛川市立東中学校で授業参観の後、浮世絵美術館「夢灯」を訪れました。静岡辟雍会からは、武藤葉子会長、遠藤亮平前会長、大石茂生副会長が同行しました。宿泊は、鷺山恭彦先生のお宅です。ここでは、学生のために馬淵会長が手ずから夕食を作っていました。

夕食会には、武藤葉子会長や仁平美和子さんなど御前崎小学校の教員三人も参加し、和気あいあいとした雰囲気の中、学生たちと日ごろの思いを語り合っていました。

翌六日、一行は掛川市内の施設見学等を行い、午後、帰途につきました。



鷺山邸にて・奥が武藤会長、手前が丹伊田辟雍会副会長

晩秋の小夜の中山を歩く

今年度の新しい企画として、十一月十八日（土）、文学散歩を行いました。当初の計画では小夜の中山公園から事任（こののまま）

八幡宮まで歩く予定でしたが、当日は、朝から激しい風雨となり、浮世絵美術館「夢灯」を訪れた後、解散しました。

館内では、武藤勝彦館長に一つ一つの浮世絵について丁寧の説明していただきました。絵画の構図、彫りや摺りといった作業、時代背景など、お話は多岐にわたり、浮世絵の奥深さを改めて感じました。

この企画は、今後も継続して行きたいと思えます。訪問先などについて提案がありましたら事務局までお知らせください。



浮世絵美術館「夢灯」・右端が武藤館長

全国代表者会議開催

東京学芸大学辟雍会全国代表者会議が十一月四日（土）、東京学芸大学で行われ、会長、事務局長が出席しました。

総会では、東京学芸大学辟雍会韓国支部「韓国辟雍会」が平成二十九年九月に設立されたとの報告がありました。また、東京学芸大学辟雍会法律ゼミが編集した冊子『教員のための何でも法律相談Q&Aすぐ役立つ学校法務』が紹介されました。

当日は、小金井祭と東京学芸大学第十九回ホームカミングデーにあたり、在日韓国伝統芸術家である金福美氏の舞台公演とコリアン・フード・コラムニスト八田靖史氏の韓国料理にまつわる講演がありました。

会費納入と会員勧誘のお願い

平成三十年度会費の振り込みをお願いします。昨夏に行われた平成二十九年総会に出席された方については、当日、いただいて

おります。会費の納入状況については、平成二十九年総会欠席者に対し、「平成二十九年八月二十一日付文書」で個々にお知らせしました。御確認の上、二十九年会費未納の方は、本年度分もあわせて納入いただきたくお願いします。

また、同僚等で東京学芸大学出身の方がいらっしゃるようでしたら、お知らせください。

振込先

普通預金

静岡銀行（コード0149）

山梨支店（店番326）

口座番号 0332468

名義 静岡辟雍会

事務局長

勝田敏勝

新入会員の情報は

katsuta-t@vc.tnc.ne.jp

「静岡辟雍」第七号は、四月以降、フェイスブックに掲載します。お近くの方に御紹介ください。

発行 静岡辟雍会事務局
文責 事務局長 勝田敏勝